

会長 遠藤家之進 正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寛
TEL 0258-52-3998

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

平成22年度 日本山岳協会 全国自然保護委員総会 新潟大会報告『1』

新潟県山岳協会自然保護委員会

副委員長 伊藤直 (工友会)

日本山岳協会全国自然保護委員総会新潟大会が、平成22年9月11～12日の日程で柏崎市高柳町のじよんのび村及び自然王国を会場として開催された。

主催は日本山岳協会、主管は新潟県山岳協会、後援は新潟県、柏崎市、新潟日報社ならびにBSN新潟放送である。総会の進行と内容は以下のようであった。



自然保護全国総会開催

- ◆11日
- 10..00 総会スタッフ集合
- 11..50 じよんのび村 萬斎菜にて受付開始

12..30 全国自然保護委員長会議開催

13..00 会場集合 会場：自然王国プレイホール
大会スローガンが会場正面に大きく掲げられている。

「里山に息づく生物多様性に学ぼう、水生植物保全から考える棚田の重要性」
参加人員 全国より60名
県71名(うち日帰り11名)

来賓
・柏崎市長(代理 副市長)
・新潟県環境保健部自然保護係 飯塚係長

・日本山岳協会 田中会長
・新潟県山岳協会 遠藤会長
▼13..15 新潟県山岳協会(以下、県山協) 森理事長
司会にて総会が開始され、県山協片桐副会長が開会宣言を行った。

始めに、主催者日本山岳協会(以下、日山協)田中会長の次のようなあいさつがあった。
「登山者が09年度は1230万人となり、従前より倍増、山を痛めている。自然保護指導員には山を守って欲しい。」

子供達に自然を守る大切さを伝えていきたい。よく論じ合い、日山協としての自覚を持つて活動して欲しい。」

次に、日山協自然保護委員会委員長長谷川常務理事が次のようにあいさつした。

「全国の自然保護指導員が、ここに顔合わせ、心合わせ、そして力合わせて活動していこう。山小屋トイレ補助金が事業仕分けで廃止対象となった。日山協として存続要望したが残れるか不明、11月に再取り組みを行う。10月に名古屋でCOP10開催、注目していきたい。」

県山協遠藤会長からは主管者として次のようなあいさつがあった。

「開催地の頸城地方は中山間地。環境観保全、生物多様性も良いが、棚田など景観保全を図りながら衰退から地域を守っていくという課題に直面している。」

柏崎市長(代理 山田副市長)は、

「高柳町での開催に感謝。柏崎市は中越沖地震からの復興半ばにある。この地域の高齢化、厳しい自然の中の生活を見て行つて欲しい。」

次に新潟県環境保健部自然保護係飯塚係長が紹介され、

総会議事に入り、司会者として東京及び栃木県保護委員長のお二方が選出された。

最初に日山協青木常任委員より平成22年度自然保護委員会事業計画と愛媛総会以降の事業報告がなされた。また、中央の常任委員より、山岳団体自然環境保全連絡会の報告がなされ、山の野生鳥獣目撃レポート取組運動などが紹介された。その後、新潟県も含め20都道府県各県自然保護委員から活動報告がされた。

各地域で様々で独自の取組がなされていて興味深い、発表時間がなにしろ短い。それらの中で各地域で比較的共通して取り組まれている活動としては、

・多くの山協(岳連)で自然保護指導員の意識高揚させるための腕章装着推進取組

・地域の山岳の水質調査、自然観察会の開催、清掃登山など実施

などが挙げられよう。また、全体的に報告からは、

・これまでの活動の成果や登山者の意識向上もあり、山のゴミが減つていて、保護活動の重点は裸地、荒廃した登山道の復旧・整備、山のトイレ整備などの方向に移りつつある。

・実態調査活動が重視されて

登山計画書を出しましょう

いる。各地でニホンシカが山岳上部まで侵出し、高山植物までもが被害にあり、ライチョウがオコシヨや猛禽類に襲われ減少、クマ・サルが人里に侵出など、山岳の生態系に何らかの変化が起きていると推測される。このため、実態調査から活動を始めている、山の清水の水質調査もいくつもの県山協で取り組まれているなどの印象を受けた。

▼15・20 質疑・討議が始まったがその中の2、3を紹介する。

■ 野生鳥獣目撃レポートの対象は？

○ シカ/ライチョウ/クマ/カモシカ/サル/イノシシ(レポートは、インターネット 日山協「野生鳥獣目撃レポート」送信ページから可能)

■ オオハンゴンソウについて
アメリカ原産の外来植物 日光戦場ヶ原に在来種の植物に置き換わり、景観が変わってしまった。湯元上部からの駆除は行った。

■ ナラ枯れが新潟県ではかなりひどいように見受けられるが、原因についてどう考えるか？

□ 講演の中で話があると思つので聴いて欲しい。続いて、大会スローガン

「里山に息づく生物多様性に学ぼう、水生植物保全から考える棚田の重要性」の提案趣旨説明が本間県山協自然保護委員長よりあり、満場拍手で採択された。

その後、本木日山協副委員長より、日山協設立50周年記念式典(2011年)の案内および H A T T E R J (ヒマラヤン アドベンチュア トラスト・ジャパン)のヒマラヤ地域における自然保護活動についての紹介があった。

最後に、来年度の自然保護大会開催催事として鳥取県を決定し、15・55 総会終了。

**賛助会員入会
ご入金のお礼**

次の皆様から、ご入金、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

- *7月9日/9月22日現在の
ご入会、ご入金状況です。
平田大六(関川村山の会) / 浅野巨寛(朝路の会) / 丸山祐一郎(映彩山岳会) / 後藤邦子(悠峰山の会) / 本間一人(亀田山岳会)

(敬称略、順不同)
新潟県山岳協会
会 長 遠藤家之進正和
理事長 森 庄一
総務委員長 遠藤 俊一

黒部川「下の廊下」をゆく「1」

高橋 欣 弘(長岡ハイキングクラブ)

10月9日(土) 午前8時15分
集合 (1・2k 30分)

長岡駅に集合する。券売機に向かうが使用方法がわからない?さすが大先輩「井口さん」だ。無事に解決。

ベンチで雑談中にJRの制服を身に付けた野口氏から差し入れ、有難い(5名だよ)。ルンルン気分です。JRに命を預けて、信越線、北陸線、そして大糸線と乗り継ぐがなぜか、西、東日本JRに温度差がある。西はキハ〇〇で左右1列の対面座席のワンマンカーでマッチ箱、東は超々デラック

スのロマンスカーで流線形。26分遅れで南小谷駅を出発(特急あずさ3号の遅れ)。大町駅に近づくくと英語と日本語のアナウンスには驚く、何とか無事に信濃大町駅に着くが、レストラン「ステーション」がない。インフォメーションに問合わせたら駅がリニューアルしての食堂で別々のオーダーで時間指定、調理場は待たなくて舞い、我々に続いて客が入るがご飯物はオーダーストップ。バス停に向かう途中、タクシー運転手に呼び込みさ

れ、愛をささやかれる「扇沢まで一人1200円、荷物代込で、」5人で5000円。どうだ、「支配人の視線が・・・できない」決裂か・・・家族会議の結果「6000円」でOK。扇沢駅周辺はまだ紅葉に早く、観光客も少なく並ぶことなくキップも買えてトロリーバス(5台)に乗車し、トンネルの途中「トンネル工事中に大破砕帯(80m)に遭遇し、湧水量は480万tにも及んだ。撤退か再開か関西電力の社運かけて、約七ヵ月の苦闘の末、突破」の説明、待機場所では扇沢行きはトロリーバス待合わせ(7台で超満員)、トンネル内で長野県から富山県に入る。ダムサイトは小雨だが観光客は99%、登山者は1%位で意味不明の言葉が飛び交うダムサイト周辺を我々は明日の登山道(木道)を確認し、「傘」を先頭にカンパ谷吊り橋を渡り湖畔遊歩道を進むと今日の目的地「ロッジ・くろよん」に着く。

「ロッジ・くろよん」で宿泊の手続きと登山計画書を提出後、コース全般の情報等を聞く、部屋は新しく、ビジネス

ホテル並み(タオル・ハブラシあり)で食事はこれがまた豪華だ。明日の天気が晴れならばこれまた最高の祈りながら、雨音の変ホ調長の音色を聞きながら、お・や・す・み。

10日(日) 午前5時10分出発
小雨 (20・7k 9時間)

出発の時間を遅らせて、小雨の音とライトの明かりで昨日の湖畔遊歩道を暗闇の中を歩く。前方にはダムサイトの明かりが霧の間から漏れて黒部湖の水面に映り、風もなく、静かだ。幻想的な風景を映し出して我々を導く。売店脇を通り、一気に約190mを(近道)下り旧日電歩道を進みU字溝に沿って下り、木橋手前の監視所で昨日の事故(滑落死)と登山道の大崩落情報を詳細に聞き、再度安全登山を誓いながら下る。木橋から見る黒四ダムのコンクリートの巨大な要塞と大量の放水には身震いする。木橋を渡り左岸の樹林帯をしばらく行き、枝沢を渡り、左頭上に丸山東壁を仰げば前回はブロックとスノーブリッジには度肝を抜かれた場所、今年には温暖化の影響で雪渓はないが、岩石がゴロゴロしたガレ場の内蔵助谷合だ。内蔵助平、ハシゴ乗越への道を左に見送り、内蔵助谷の橋を渡り進むと頭上の岩壁は大タテガビン。9月22日

「ロッジ・くろよん」に着く。

「ロッジ・くろよん」で宿泊の手続きと登山計画書を提出後、コース全般の情報等を聞く、部屋は新しく、ビジネス

ホテル並み(タオル・ハブラシあり)で食事はこれがまた豪華だ。明日の天気が晴れならばこれまた最高の祈りながら、雨音の変ホ調長の音色を聞きながら、お・や・す・み。



下の廊下を行く

未明に起きた大規模な崩落跡、監視をして一気に通過。灌木混じりのガラガラした岩の間を上り下りして、また対岸には落ち込む沢水を見ながら進むと一段と華麗な滝「新越沢」。新越沢出合で危険を顧みず、雪渓と灌木、ガレ場を50〜60mを下り黒部川で岩魚釣りを目撃し、大声で注意する。聞こえたのか合図を我々に送るが・・・。「馬の耳に念仏」、中部山岳国立公園特別保護区を知っての確信犯か。屏風岩の絶壁につけた狭い歩道と大へつりを慎重に進むと黒部別山谷出合、丸太の梯子を10m位の登り下りだ。いよいよ黒部溪谷の核心部、白竜峽。脚下にはスノーブリッジ・雪渓と岩石の間を水流が激しく躍っているコバルトブルーの黒部川溪谷美をより一層引き立てている。十字峡まではもう一息、シャワールームでたっぷりと沢水を浴びて、腹も空いてくるし、天候も回復して晴れてくる。対岸に滝が見える

と「十字峡だ」。先客が食事をしてしている。我々は先に轟音すさまじく本流に注ぐ剣沢の吊橋（水面から100m以上はあるだろうか）を20cm巾で2本の木道をスリッパに注意して、ワイヤーの欄干につかまり、一人々渡る。数年前に私が単独で下の廊下に入り、十字峡を5分位遅く出発すれば遭遇した事故現場。昼食はラーメンで天気は快晴で気温も上がり暑い、後半に備えて短時間に切り上げる。前半は道は狭いし、雨で岩は滑るし、もちろん木橋も滑る、スリッパで恐くて楽々周辺の風景を楽しむ暇もない。また、頭上の岩にも注意しながら、ひたすら歩く。半月峡・S字峡を恐る恐る見ながら進むと対岸に黒四地下発電所の送電線の引き出し口が見える。少しは余裕ができて、左右の景色はもろろん稜線上の鹿島槍ヶ岳も見ることが出来る。灌木の中を下って目前にはまた恐怖の吊橋、東谷吊橋だ。

一人ずつ渡るが十字峡の吊橋より長くて揺れる、下では地獄の閻魔さまが口を開けて待っている。渡りきるとため息が出るが直ぐに左に降りて登ると車道に出る。

秘密基地・高熱隧道のトンネルを抜け仙人ダム上を渡り、宿舎前の緑のジュータンを進み、樹林の中の急登を登りきると水平道。右下の飛竜峽が爽快だ。仙人池からの登山道に合流し、高熱隧道から大量の蒸気を噴出したのが見え、急坂を下ると青い屋根の阿曾原温泉だ。気を引き締めて慎重に下り、フロントで宿泊の手続中に「長岡の高橋ですがすみませんが1名追加・・・」「お！おほえてる。おほえてるカレーの高橋・・・」「はい」等々でハンガー2本と靴の番号札を受け取り、部屋は3号室の大部屋で他のグループが来ないうちに場所を確保して早々に布団を敷き（荷物は乾燥室）、小雨の中を10分ほど下ると露天風呂。深い谷間の紅葉を眺めながら湯に浸かる野趣は、黒部川しか味わえない醍醐味と源泉かけ流し、加温、加水なし。塩ビの径が15cmのホースから湧流のごとく熱湯地獄、無理に入浴すれば茹でダコで皮膚は真っ赤。水は径が5センチのホースからチロチロで、脱衣場は高熱隧道の中で「サウナ脱衣場」。午後4時半から女性専用で我々の美女も露天風呂の満足感と感激で満喫。夕食まで時間があるので仮眠するが騒がしく12名のパーティー）が布団の

位置がどうのこうので大声で怒鳴っている。我々は我慢に我慢をしたがついに堪忍袋がきれて私が注意する「声が大きいので小声で」と「何が悪い、俺は地声だ」と酒の飲みすぎで、ただ自分の主張だけで聞く耳もなく怒鳴り声でだんだんとエスカレートするがパーティーは誰一人として注意もしないし、モラルもない酔っ払いの登山者（仙台の山岳会）で井口氏が仲裁するが火の中に油を注ぐごとくして支配人を呼びに行く。

本人は支配人から一喝されても無視で最後に「退去させろ」との一言で静かになり、とりあえず食堂に連行して行く。夕食は阿曾原温泉名物「カレーライス」とにかく美味しい、パバイヤ鈴木氏も絶唱する。制限時間内（30分）はおかわり何杯でもOKで今までの記録はカレー20皿・米は20人で6k。支配人より天気予報の情報があり、午後7時に大雨、カミナリ注意報、明日の午前中は30%、午後は20%で雨。外は雨足が段々速くなり、雨粒も大きくトタン屋根を打ちたたてている。トランプパーティーは全員食堂室へ移動する。夜半に仙人池からの登山者と同室。9時消灯 お・や・す・・・迷物「猛獣合唱団」の始まりだ。

次号へ

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134 代
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー

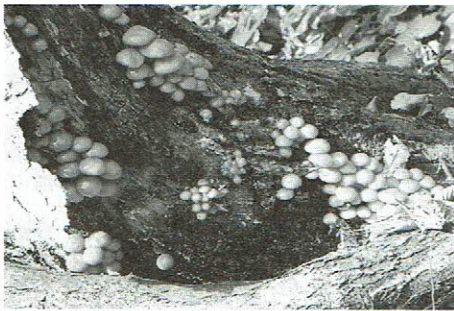


パーマーク

長岡市西室2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

新山協ニュースの原稿募集のお願い!



草中腹まで降りリグナ林
 の草が月立つ頃はなつてよ
 りだろやく陽のさして来た
 一五、な、こ、く、免配と包
 まい、エ、感、い、て、日、溜、りの、藪
 敷、の、中、を、張、くと、あ、つ、た
 「ナ、メ、コ、」と、あ、つ、た
 「日、ク、田、代、平、」と、あ、つ、た。
 いた、ク、リ、タ、ケ、」と、あ、つ、た。

広く原稿を募集いたします。行事・記念誌・会報・などの紹介。会の地域研究・紀行文、山行記録、「チョットそこまでのな低山の楽しい文」や詩、地域のアプローチや登山道・動植物・環境問題に関する感想や情報などお寄せ下さい。原稿はメール（横文、原稿用紙1,500文字程度）郵送で短文でも結構です。イラスト、写真つき歓迎します。

〒940-0221 長岡市金町2-2-17 浅野亘寛 方

☎ (0258) 52-3998 Mail: a-unkai@m8.dion.ne.jp

編集こうき

▲童話や物語の中ではついでに悪役にされることの多いオオカミは、実は家族思いでプライドと結束力をもった動物だと知られている。だが世界的にみても生息地域がかぎられ減少傾向という。日本の肉食動物では生態系の頂点にいたニホンオオカミ、エゾオオカミも絶滅して100年以上が経過した。ニホンオオカミは大陸のオオカミとは形態も違い日本独自のオオカミだったようだ。ヤマイヌともよばれ、地域によっては、畏敬の念をもって神としても崇められたニホンオオカミも絶滅してしまつては興味ある謎の解明のしようもない。オオカミが絶滅しなくて良い、生物多様性の豊かな環境だったら、イノシシやシカも調和のとれた繁殖をして現在に至つていたかも知れない。ニホンオオカミは不幸にも当時流行した狂犬病や開拓、イノシシ、シカの減少などが複合的に絶滅を促めたと言われている。

▲各地でのクマの出没騒ぎで、小学生の孫が学校で配られたスズをランドセルにつけて通学している。市街地にごく近い地域だが、タヌキ、キツネ、テンなど小動物が普段から生息している山々に囲まれた盆地だ。今季はこの地域ではあまり見かけないサルも街の中心にある市民体育館の国旗掲揚塔に上つて人間を見物していた、などと話題にもなった。守門岳を背にした集落などは春・秋いつでもクマが出没する地域だが住民も騒がず、「クマ注意」の看板で注意をうながしている。クマを驚かさず、事前に人の存在を知らせることで、遭遇を避け得ることを知っているからだ。キノコ採り、山遊び、などは自己責任で注意すればすむことだ。

各地で捕獲、駆除されるクマが小形すぎるとの指摘もある。本来の成獣の体軀とはかなり違うようだ。「人間の怖さを親クマから教育されてないクマが成獣になることを恐れる」その道で生きた古老の話を耳を傾けたい。人害で荒れた生息地では必ず枯渇する食料、今年だけではなく秋になると繰り返される話題だろう。なんとか駆除だけは避けてもらいたいものだ。すでに九州や四国ではツキノワグマは絶滅か、とも言われている。

会報・編集 浅野

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第553号・IATA加盟 (社) 日本旅行業協会会員
 本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

- 長岡営業所 〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
- 新潟営業所 〒950-0918 新潟県長岡市山2丁目2番11号 ☎ (025)246-2266



JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp